

# 掃除について



当たり前かもしれませんがふと思ったので書かせていただきました。

なぜ、そうじは無言でやるのでしょうか？

そう思った理由は喋りながらしても手が動いていればいいんじゃないかと思ったので書かせていただきました。教頭先生の考えを聞きたいです。

できれば意見は、「ほっと相談」の方に送ってもらえると嬉しいです。私が学校全体のことを決めているわけでは無いので、勝手なことは言えませんが、喋ることでそちらに集中してしまい掃除が進まないということはあると思います。実際に学校でみなさんの掃除を見て回った時に、見えないところで友達二人でずっと喋っていて同じ場所からまったく動いていない人がいました。もちろんすべてのみなさんがそうとは思いませんし、私がたまたま見かけたその時だけで、普段は一生懸命掃除をしていたのかもしれませんが、それに、コミュニケーションを取りながらする良さもあると思います。今の帯山中がどちらが良いかはみなさんと一緒に考えたいところですね。ところで、無言掃除には5つの心を磨くという意味もあります。ただ単なる掃除では無いということですね。日本の学校は、生徒自ら掃除をしますが外国ではそうではありません。それは、掃除の活動を通して心を育てているからです。これは今回は詳しく説明しませんが「5S」といって諸外国が日本の教育システムを導入するなどもしています。さて、無言掃除ですが5つの心が育つと言われてます。その5つは、「勤労の心」と「気づく心」と「思いやりの心」と「感謝の心」と「我慢する心」です。

「勤労の心」は短時間の掃除を真剣に取り組み、効率の良い掃除の仕方が身につきます。

「気づく心」は他人を頼らず自分自身で困っている友達に気づいたり、汚れているところに気づいたりできます。

「思いやりの心」は困っている(苦勞している)友達を手助けし、自分の持ち場が終わったら、他の友達の持ち場を手伝うことが心が生まれます。

「感謝の心」は手伝ってくれた友達に「ありがとう」と感謝したり、学習している校舎や教室に感謝する心が育ちます。

「我慢する心」は話したくても我慢して掃除の時間「無言」で掃除することで忍耐力がつきます。

とまあこんな感じですが、いずれにしても目的を持ってすることが大切ですね。無言掃除にも意味があるし、コミュニケーションを取りながら掃除をするのも意味があります。生徒会で議論してみるのも良いかもしれませんね。



教頭 田中